

## ◎中学校完全給食推進連絡協議会における質問・意見等

\*これまでの中学校完全給食推進連絡協議会で出た質問・意見等を抜粋しています。

\*「⇒」は質問に対する会議中の回答等を記載しています。

### (1) 日課

①中学校は教科担任制であるが、4 時間目が終了後、担任が責任を持つとなると、どれくらいの時間で教室に戻れるか、また戻れない場合は誰が担当し責任を持つかなども検討していかななくてはならない。

②小学校で実際の配膳の様子を見て、中学校においてどのように実践できるかを考えるとともに、中学校教員に給食指導の経験がないことも踏まえ、日課を工夫していかなければならない。

③中学校給食が新たに開始されると、今よりも時間を確保しなければいけない。準備や片付けの時間も考えると、現状と比較し 20 分から 30 分は長くかかるのでは。時間をどこで生み出すかという部分が課題である。

④学校の活動によって学年ごとや生徒個人ごとに昼食時間がずれるという場面があると思うが、このような場合の対応はどのようにするのか。  
⇒学校ごとに個別対応することは難しく、行事によっては、ある学年だけ給食を提供しないといった対応も必要になると思う。また、運用の工夫によって対応できる場合もあると思う。

### (2) 食物アレルギー対応

①弁当から給食へ切り替わり、食物アレルギーを有する子どもと保護者は不安だろう。小学校と中学校（センター）で食物アレルギーを有する子どもの引き継ぎをきちんと行う必要があると感じる。

⇒センター方式では、ある程度統一した対応をしていくことになる。その中で、個々の状況にどれだけ対応できるかがポイントとなる。

- ②小中一貫の食育という意味でも、現在の小学校における、アレルギー一面、衛生面、栄養面で十分に検討されたメニューを継続できると事故防止にもつながるのではないか。
- ③食物アレルギー対応は、確実な連絡体制を整備して取り組まなければならない。小学校のノウハウを中学校に伝えることも重要である。
- ④中学校現場は多忙を極めており、食物アレルギーに関する事故などが決して起こらないよう、現場、教員の意見を十分に集めたうえで検討を進めてほしい。

### (3) 栄養教諭・学校栄養職員

- ①栄養教諭等の配置については、給食センター側だけではなく、実際に給食を受け入れ、生徒に配膳し、指導を行う学校現場に関しても事故防止の観点から非常に重要である。
- ②中学校完全給食の開始に伴う、栄養教諭等の配置についての想定は。  
⇒センターの食数（約 10,000 食）からすると、県から配置されるのは 3 人となる見込み。それに加え市費で配置できるかということになる。全校配置が難しい場合、センターへの集中配置もしくは、複数校兼務かなど、最大限の効果を発揮できるよう、検討していきたい。
- ③栄養教諭等の効果的な配置とは具体的にどういう想定か。  
⇒現在小学校では 1 人 2 校を兼務している。中学校でも専門的な職員の配置が望ましいと考えており、全校配置が望ましい。しかしながら予算の兼ね合いなどから困難な可能性もある。その中で最大限に効果を発揮できる体制を整備していきたいと考えている。
- ④栄養教諭と、学級担任など一般教員との連携を密にすることが重要であると思う。

#### (4) 食育

- ①他自治体では給食をすべて食べきるよう指導を行い問題となった例もあるが、本市の小学校ではどのような指導がなされているのか。  
⇒給食時間マニュアル\*に基づき1食分の基準量を目安に盛り付け、自分の体にはこのくらいの食事が必要であると把握した上で、食べきるよう指導するのが基本である。ただし、体格差や偏食、好き嫌いもあるので、6年生までに食べられるようになることを一つの目標とし、苦手なものも少しずつ無理させず、徐々に食べられるような指導をしている。

##### \*給食時間マニュアル

学級担任が給食時間に行う指導や支援の内容を示したもの。平成27年3月に作成し、現在本市の小学校における給食指導に活用している。

- ②センター方式の場合、担任が生徒の苦手なもの、食べられないものについての指導も行うのか。  
⇒小学校の教員は給食時間マニュアルや給食指導について、夏季研修会などを受講しており、新規採用教員には、校内研修で栄養教諭や学校栄養職員が指導するなどしている。小学校で6年間指導を受けた上で中学校へ進学するため、中学校の現場ではそこまで苦労しないのではないかと考えている。
- ③弁当持参から給食へ変わったとしても、昼食に関して子どもが家庭で話をしたくなるようなアイデアがあると良いのではないかと思う。  
⇒給食が家庭とのコミュニケーションツールになるよう、学校とも協力しながら進めていきたい。

#### (5) 研修等

- ①中学校教員にも手引きや指導方法を徹底していかないと、大きな事故につながる恐れがある。そもそも給食指導については、中学校教員は経験がない。小・中学校間で交流の場や研修などについて検討し、連携していかなければならない。

②日課や食育の推進に関して、教職員向けの全体が集まったの勉強会などが必要ではないか。

⇒小学校での給食指導を中学校の先生方にも直接見ていただく機会も設けたいし、今後の検討になるが、不安なく給食指導ができるように、勉強会なども必要だと考えている。

#### (6) その他

①市内の中学校の教室に配膳台を置くのは、スペースの問題から厳しい学校があると思う。配膳台も含めた配膳時の動線も念頭に置くべきではないか。

②トレイを使用した方が良いとの意見が多いが、現在の中学校の教室にどのくらいの大きさの配膳台が入り、かつ生徒が並ぶことができるのか。配膳台を選ぶ際は、実際に現場を見ていただき、安全に効率よく配膳できるようなサイズの配膳台を選んでほしい。

⇒ご意見をいただきながらサイズなども決めていきたい。

③センター方式での運用開始時、学校が行うべき新たな業務、役割分担などの想定が提示されれば現場もより具体的に考えることができると思う。

④学級閉鎖などで給食を止める場合、確実に連絡をしなければならない。現在小学校において、栄養教諭や学校栄養職員が本務校として配置されていない学校では、一般の教員が連絡するケースが多い。

⑤異物混入などの、問題発生時の対応については明確になっていた方が良いと思う。